

6. LVGの防腐性能

防腐性能試験

◆防腐性能の評価はJIS K1571に記載されている「防腐性能試験」に準じて行いました。まず、製造したLVGから2×2×1cmの試験体を切りだし、耐候操作（JIS K1571付属書A（規定）*）を施した後、培養瓶中で十分生育した木材腐朽菌（2種類：オオズラタケ、カワラタケ）に所定期間（12週間）暴露しました。暴露した後、試験体を回収し、暴露前と暴露後でどれだけ質量が減少したか（質量減少率（%））で防腐性能を評価しました。なお、質量減少率は（暴露前の質量-暴露後の質量）／暴露前の質量×100で求めました。

* 屋根、外壁板などによって風雨から遮断され、かつ、地面に直接接しない建築用木材のように、通常、水分の供給される可能性は少ないが、突発的に高湿度の環境下に置かれる可能性のある木材を想定したもの



- ①培養瓶中で。木材腐朽菌が十分に生育した様子。
②、③腐朽菌が十分に生育した培養瓶に試験体を暴露した様子。

LVGの防腐性能

- ◆12週間腐朽菌に暴露した試験体の質量減少率を下図に示します。スギ辺材は、腐朽菌の活性を調べるためのもので、その質量減少率から十分な活性があり試験が成立していることが確認されました。
- ◆薬剤なしのLVGでは質量減少率が3%より大きくなり性能基準をクリアしませんが、標準添加量（防腐薬剤がLVG1m³あたり2.0kgとなる量）を接着剤に添加したLVGでは、両腐朽菌ともに質量減少率が3%以下となり性能基準をクリアしました。

